

入稿する前に！

Ai デザインデータの作り方 (1/2)

Step 1

データ作成時に、下記の設定をチェックしてください。

■ カラーモードは RGB に！

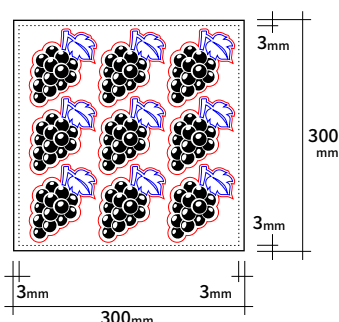
CMYK で作成すると、レーザーカッターに読み込めません。

ファイル > ドキュメントのカラーモード > 「RGB カラー」にチェック

ウィンドウ > カラー > 右上の 3 本線マークをクリックし「RGB」にチェック

■ オブジェクトの大きさは、選ぶ素材の大きさより 3mm 以上オフセットしたサイズまで。

はみ出したオブジェクトやギリギリのサイズのオブジェクトは加工できません。



素材サイズ一覧			
※各素材の価格など、詳しくは Anymany サイトの「Material」ページでチェックできます。			
シナベニヤ、MDF、レザー、フェルト、紙	300×600mm	300×300mm	→ 木目方向 (シナベニヤのみ)
アクリル、コルク	300×600mm	300×300mm	150×300mm
ヒノキ、アガチス	140×600mm	140×300mm	→ 木目方向

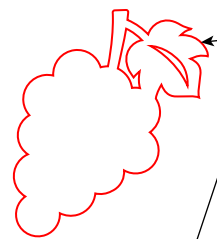
Step 2

下記のように、希望の加工によって 線 / 塗りの色 を設定してください。

■ カットのみの場合

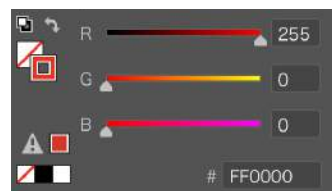
加工時間の目安：短

仕上がりイメージ



カット (カットしたい線)

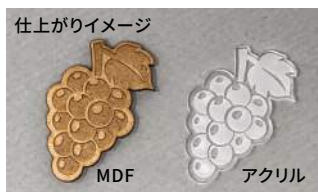
塗り：なし
線：カラー 赤 (R:255 G:0 B:0)
太さ 1pt



■ カット＋彫刻 の場合

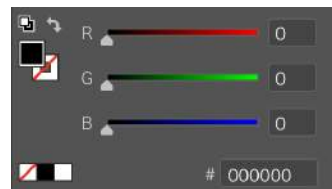
加工時間の目安：長

仕上がりイメージ



彫刻 (彫刻したいエリア)

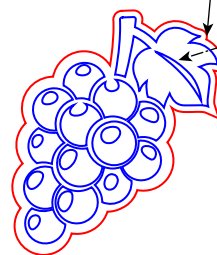
塗り：カラー 黒 (R:0 G:0 B:0)
線：なし



■ カット＋ライン彫刻 の場合

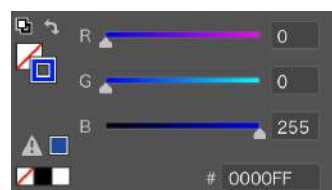
加工時間の目安：中

仕上がりイメージ



ライン彫刻 (ライン彫刻したい線)

塗り：なし
線：カラー 青 (R:0 G:0 B:255)
太さ 1pt



※「彫刻」と「ライン彫刻」の違い

広い面を彫刻したい場合は「彫刻 (黒の塗り)」に設定を。0.5mm程度の細い線を彫刻したい場合は「ライン彫刻 (青の線)」の方が加工時間が短いのでオススメです。0.5mm以上の太い線を彫刻したい場合は、線をアウトライン化して「彫刻 (黒の塗り)」に設定してください。

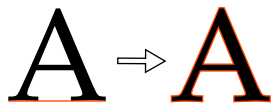
入稿する前に！ Ai デザインデータの作り方 (2/2)

Step 3

最後に、下記の項目を確認して完了！

■ 加工したいテキストや効果は **アウトライン化** されていますか？ 下記の手順で、アウトラインを作成してください。

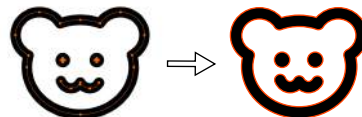
・ 通常テキストの場合
→ 書式 > アウトラインを作成



・ ブラシの効果の場合
→ オブジェクト > パス > パスのアウトライン



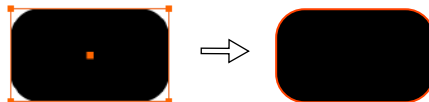
・ 線の太さを加工面にしたい場合
→ オブジェクト > パス > パスのアウトライン



・ エンベロープ効果がかかったオブジェクトやテキストの場合
→ オブジェクト > エンベロープ > 拡張

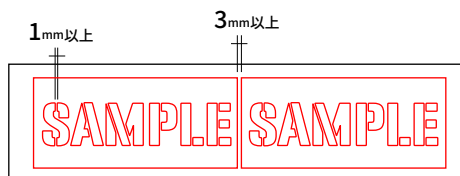


・ 「効果 > スタイライズ > 角を丸くする」で角を丸くしてあるオブジェクトの場合
→ オブジェクト > アピアランスを分割



■ カットの **線と線の間隔** は十分余裕がありますか？

オブジェクトとオブジェクトの間隔は 3mm 以上、
パーツの細さは 1mm 以上間隔を空けてください。
焦げや折れの原因になります。



■ **線が 2 重に** 重なっていませんか？

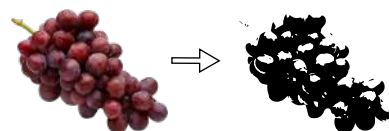
重なっている部分があると、レーザーは 2 回加工してしまいます（焦げや歪みの原因になります）。

→ ダイレクト選択ツールを使って余分な線を選択し、削除

■ イメージ (jpg など) を元に行っている場合は、**イメージをパス化** してください。

画像データを貼り付けただけでは、加工できません。

→ オブジェクト > 画像トレース > 作成して拡張 でパス化



注：スタンプ加工をしたい場合

■ オブジェクトを **反転** する必要はありません。「スタンプを押した時の見た目」通りに作って大丈夫です。

スタンプで **残したい部分だけを黒** に設定してください。自動的に、黒いオブジェクトとカット線との間が彫刻されます。

